

アルペンスキー競技における世界強豪国と日本の比較研究

A Comparison Study on the World's Leading Countries and Japan in Alpine skiing

1K05B108

指導教員

主査 宝田雄大先生

佐藤 祐亮

副査 宮内孝知先生

【第 1 章】アルペンスキー競技の歴史的背景

この章では、アルペンスキー競技の誕生や発展について歴史を振り返ると共に、日本にアルペンスキーが伝来してきた背景や発展の仕組みなどについて考察する。どのようにしてアルペンスキー競技が普及、定着してきたかを明らかにし、世界と日本の歴史の違いについて理解する。また、アルペンスキー競技が冬季オリンピックの正式種目として認められるまでの過程についても合わせて振り返り、現在に至るまでの背景を理解する。

【第 2 章】アルペンスキー競技における各国のチーム体制

アルペンスキー競技において、強豪国と呼ばれるオーストリアのチーム体制と日本のチーム体制について比較を行い、相違点について考察を行う。世界の強豪国と日本では、ナショナルチームへ入るための条件にも大きな違いが見られる。その違いから、技術系種目を得意種目とする日本、全ての種目で活躍できる選手を数多く輩出できる国が生じてくる。

オーストリアと日本のナショナルチームの構成では、スタッフ数の違いや強化費の違いなど、多くの点でオーストリアの方が優れている部分がある。また、選手、指導者に対するサポート体制の違い、ナショナルチームへ入るまでの選手の育成制度の違いなどについても考察を行う。

【第 3 章】各種目における年齢・体格の関係性

各種目における年齢・体格の関係性について比較を行った。現在、他国とデータの比較を行っ

ていないため、以前に日本で行われたデータを元に考察を行った。当時、日本の高速系種目においてトップレベルであった選手とオーストリアの選手を比較した結果、オーストリアの選手の方が身体能力、体力テストの両データにおいて優れた数値を記録していた。

同時に、高速系種目と技術系種目における身長・年齢・体重の比較も行った。過去、3 シーズンの種目別ランキング 10 位までの選手をデータにまとめ比較を行った結果、全ての項目において、高速系種目の入賞者の方が大きい数値を記録していた。これらのことから、技術系種目と高速系種目では体格、年齢による有意差が生じた。

【第 4 章】環境の違いから生じる各国の特徴

技術系種目と高速系種目の試合数から各国の特徴について考察を行った。日本では高速系種目が行える環境が少ないため、高速系種目の練習量、試合数の少なさが課題として挙げられる。それらの環境の違いから、オリンピックや世界選手権などの国際大会において成績が伸び悩んでいると仮説を立てたためである。

高速系種目を得意とするオーストリアとスイス、高速系種目が苦手な日本との比較を行った。その結果、技術系種目では強豪国と同じような試合数が開催されているが、高速系種目の試合数においては日本が圧倒的に少ないことが明らかとなった。これらのデータから、試合数と競技成績についての関係性を考察する。

【第 5 章】日本のアルペンスキー競技における今

後の課題

日本のアルペンスキー競技における今後の課題について考察を行った。日本チームが今後、高速系種目でも活躍をするためには高速系種目に対する考え方を「技術系種目向上のための練習」という考え方から、「国際大会で勝つための練習」という考え方へ変える必要がある。また、日本選手は強豪国の選手に比べ体重が軽く、経験が多い選手が少ないという課題も挙げられる。技

術系種目に比べ高速系種目では体重が重い選手や経験が多い選手の方が有利である。

体格の良い選手、経験が多い選手を育成することで、技術系種目だけでなく、高速系種目においても好成績を収める可能性が高まる。最後に、日本の地形やスキー場の協力体制などから生じる高速系種目の練習環境、試合数の少なさを課題として挙げ、考察をおこなう。